

地域医療連携だより

Vol.215

R3.4

長浜赤十字病院 地域医療連携課
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7
TEL 0749-68-3314
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター
滋賀県地域がん診療連携支援病院
基幹原子力災害拠点病院

「あの日」から始まった長浜日赤の原子力災害対応

今年には東日本大震災から10年の年です。当院も救護班を発災当日に派遣し、3/12福島県相馬市で救護所を開設し避難者の診察を行っていました。福島の方が全く聞き取れず、地元の保健師さんに通訳をしてもらいながらの診療でした。その日の夕方、本部から原発事故のため急遽移動するよう告げられ、ともに活動していた保健師さんに退避することをごく簡単に話ただけでまさに逃げるように夜中に川俣町に移りました。翌日双葉町からの避難者に対応していた際にお会いした町長（当時）から「我々は汚染されている」と言われ、隊員に動揺が走りました。最終的に隊員自身がスクリーニング検査を受け、3/14に福島県内の赤十字救護活動がほぼ全面中止となりました。知識も装備も無かったために赤十字として必要とされる時に支援ができず、深い反省の念を感じました。

そのような経験をして、心と自分たちの地域を振り返ってみた時に滋賀県でも広域原子力災害への備えが必要であることに気づきました。当院は県内で最も原発に近い災害拠点病院であったことから、震災後に始まった滋賀県の原子力災害医療体制整備に積極的に関わっていきました。現在は基幹原子力災害拠点病院の指定を受け、いざというときの最前線での対応と、平時の教育研修を行う役割が求められています。

このような重要な役割が期待される一方で、原子力災害という非常に稀な事象に適切に対応できる施設は当院にはありませんでした。原子力災害時には、病院内での治療を行う前に、身体の表面に付着した放射性物質を取り除く「除染」が必要になることがあります。しかし平時に病院で除染を行うことはなく、既存の施設をそのまま用いての除染は難しい状況でした。このため滋賀県や内閣府と協議を進め、「原子力災害対策施設」をはじめとする施設整備を行いました。ここでは、①体表面の汚染の測定、②脱衣による除染、③洗浄による除染（必要時）、④甲状腺内部被ばく検査（必要時）、⑤除染後に医療の必要性を判断（トリアージ）、⑥医療の必要度に応じた治療エリアへの誘導、⑦治療の実施、を一連の流れとして行うことができます。これにより、避難時に行われるスクリーニング検査で表面汚染があるとわかった避難者の除染と治療を迅速に行えることが期待されます。また、2階には全体を統括するための災害対策本部を置く部屋があります。平時は原子力災害医療に関する研修会等に使用する予定です。

あの反省からの10年間、ある意味追い風の中ハード／ソフト両面で様々な整備が進んできました。しかし一方で10年が経過し「記憶の風化」が始まっており、今後は向かい風の中での歩みになるでしょう。今回整備された施設を十分に活用しながら、歩みを止めないよう頑張っていきたいと思えます。



救命救急センター長
(兼)救急科部長
中村 誠昌



原子力災害対策施設（外観）



除染室

～新任医師のお知らせ～

消化器内科	森田 康大 (もりた やすひろ)
	安田 登摩 (やすだ とうま)
循環器内科	高木 俊祐 (たかぎ しゅんすけ)
糖尿病内分泌内科	夜西 麻椰 (よにし まや)
外科	児玉 泰一 (こだま ひろかず)
	村崎 岬 (むらさき みさき)
整形外科	森田 悟希 (もりた さとき)
泌尿器科	佐藤 亘 (さとう わたる)
	奥末 理知 (おくすえ りち)
小児科	北岸 弥寿朗 (きたぎし やすお)
	浅井 和暉 (あさい かずき)
	北野 英 (きたの えい)
産婦人科	中川 郁 (なかがわ かおる)
	左古 寛知 (さこ ひろとし)
精神科	西 泰孝 (にし やすたか)
放射線科	大田 信一 (おおた しんいち)
歯科口腔外科	浅田 泰幸 (あさだ やすゆき)
	下村 侑也 (しもむら ゆうや)
救急科	中川 晃輔 (なかがわ こうすけ)
形成外科	松岡 唯 (まつおか ゆい)
研修医	清水 彩永 (しみず さえ)
	中村 美菜子 (なかむら みなこ)
	前田 菜々花 (まえだ ななか)
	三輪 祐果 (みわ ゆうか)
	村田 航 (むらた わたる)
	田中 伶於 (たなか れお)



よろしくお祈いします。

～退職医師のお知らせ～

形成外科	河合 勝也
消化器内科	横田 佳大
循環器内科	高橋 宏明
糖尿病内分泌内科	森 亜希子
産婦人科	林 真麻子
精神科	藤村 俊雅
歯科口腔外科	足立 健
歯科口腔外科	森 敏雄
整形外科	阪本 将輝
泌尿器科	中村 真俊
放射線科	嶋田 功太郎
外科	東口 貴之 (4月から非常勤)
小児科	小川 詩季
小児科	榎本 早也香
小児科	大島 真衣
研修医	浅田 春季
研修医	奥村 勇太
研修医	高石 亮太
研修医	金 佑哉

お世話になりました。



放射線科よりお知らせ

5/17 (月)～5/21 (金) の5日間、
機械の更新に伴いセファロ・パノラマ撮影
を停止させていただきます。
ご不便をおかけしますが、ご理解のほど
よろしくお願いいたします。

第2回

滋賀県排泄支援プロジェクト 排尿支援員育成講座

みんなで排尿ケアに取り組もう!

日 時：令和3年5月22日(土) 10:00～11:30

形 式：Webシステム「Zoom」を用いて開催

テ ー マ：「排尿障害への日常生活支援」

「排尿ケアにおける各職種の役割と多職種チームケア」

演習 「おむつのあて方、おむつの給水実験」

演習 「骨盤底筋運動」、排泄用具の紹介 等

講 師：長浜赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 大音博美氏

長浜赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 中川祐子氏

対 象：排尿ケアに関心のある多職種

申し込み：**事前参加登録**

5月11日(火)までにメールにてお申し込みください。

送信先 chiiki@nagahama.jrc.or.jp

問合せ先：長浜赤十字病院 地域医療連携課 吉居 糸井

TEL0749-68-3314

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

WEB研修

